

## 〈祈りのために〉

「愛する者たちよ。すべての霊を信じることはしないで、それらの霊が神から出たものであるかどうか、ためしなさい。多くのにせ預言者が世に出てきているからである。あなたがたは、こうして神の霊を知るのである。すなわち、イエス・キリストが肉体をとってこられたことを告白する霊は、すべて神から出ている。」

(ヨハネの第一の手紙4章1-2節、口語訳)

「終りの時である」(2:18) 今、わたしたちは、神に「愛する者たちよ」と呼びかけられている。ここでわたしたちは、より正しく厳密にキリスト告白に立つことを促されている。これは、実際にはこの同じ呼びかけを受けて、相応しくお答えしようとしたキリスト告白者である先の代が、その告白者であることを受け継ぐべき次の代に向けて呼びかけているものである。この呼びかけは、より正しく厳密なキリスト告白に立つためいつもが戦いであった経験、しかもそのすべてが神の恵みであった歩みを通し、特に獲得した正しいキリスト告白のための教えを指し示す。わたしたちは、さらに完全なキリスト告白のための課題に取り組みされる。この課題を御言葉によりいよいよよく捉えそれに従ってゆくことは、わたしたちの靖国神社問題との取り組みの核心部である。

「すべての霊を信じることはしないで、それらの霊が神から出たものであるかどうか、ためしなさい。多くのにせ預言者が世に出てきているからである」。わたしたちが信じる霊は、イエス・キリストを告白する霊である。しかも、それは、わたしたちに正しく、厳密に、「肉体をとってこられた」イエス・キリストを「主」と告白させるものであって、これこそ「神から出た」霊である。わたしたちは今、この霊を神に切に祈り求めるべきである。神は、今も、この霊をわたしたちにお与え下さる。それにより、受肉し、苦難を受け、十字架に死なれたイエス・キリスト、よみがえり、天に昇り、聖霊を降し、再び来たりたもう主、今来たりつつあられるイエス・キリストをいよいよ固く信じて告白することが出来るよう導いて下さる。この告白を果たしてこそわたしたちは、世と正しく対峙し、この世の諸霊に惑わされないでいることが出来る。わたしたちは、「みたま」掲げる靖国神社を前面に押し立て自分たちこそ主であると権力を振るい出している現政権下のこの国に足を取られ、これと滅びを共にしてしまうことがないよう護られる。このために、わたしたちは、今の時にあって、神に「愛するものたちよ」と呼んで頂いているのである。

## 祈り

「わたしたちのキリスト告白をより正しくかつ生きたものとし、わたしたちを今、固く立たせて下さい。」 篠塚予奈(東京告白教会牧師、大会靖国神社問題特別委員会委員)

## ボンヘッファーから学ぶ

秋元順子(雲雀ヶ丘伝道所会員)

よき力に 信実(まこと)に 静かに取り巻かれ 不思議に守られ 慰められて 私はこれらの日々を君たちと共に生き、そして君たちと共に 新しい年へと歩いて行く …「抵抗と信従」…

静謐なボンヘッファーの詩に出会ったのは、40年以上前のことでした。恵泉伝道所では、当時、勤羊会の集会で「抵抗と信従」が読まれていました。牧師である彼がヒトラー暗殺計画に加わり、39歳で刑死したことを聞いて「えっ、牧師さんがそんなことをするの?」と驚いたものでした。「抵抗と信従」を紐解いてみましたが、「究極のこと」とか「究極以前の事柄」という文章に直面して、つい敬遠してしまいました。教会では、バルトとかボンヘッファーなどの名前が会話に浮上して、“これは大変な所にきてしまった”と思ったものでした。

時が移り、2015年は、戦争協力の道を歩もうとする現政権に「ノー」の意思表示をすべく立ち上がった人々が、国会周辺を埋め尽くしました。手作りの幟やプラカードを掲げている群れに加わっている時、忘れていた記憶が呼び戻され、ボンヘッファーの平和講演(ナチスの悪を世界教会全体の問題としてとりあげるべきと訴えた講演…1934年・ロンドン。「末尾に紹介」)の一部を配布しました。プリントを読んだ人の中には、「平和について簡潔に書かれていて、今まで出会った文章の中で心に残る美しい文章だ」という感想を述べられました。「ところで、ボンヘッファーってどういう人?」と尋ねられました。キリスト教関係の書店には、死後70年経ってもボンヘッファー特集のコーナーがあり、多くの方々の執筆がみられますが、それでも知られていないのです。

私もこのことから、反ナチスのグループのことを学ぶきっかけが得られました。ヒトラー暗殺計画に直接手を貸したのは、フォン・シュタウフェンベルグ将校たちであり、ボンヘッファーは、アメリカ留学や2年間のロンドン滞在経験を生かして、連合国側に情報提供をしたり、和平交渉の働きかけをしました。しかし、当時のドイツ国防情報部に反ナチグループが存在していることを連合国側に信用してもらえず、この交渉は失敗に終わりました。暗殺計画も失敗し、関わった人々は刑死となりました。

最近、ボンヘッファーの著作を読むようになりました。彼は殺人を善しとしているのではなく、殺人は悪であることに変わりはない。「剣を取る者は皆剣によって滅びる」(マタイ26:52)。しかし、隣人のためにその罪を自ら引き受ける者がこの時代に必要であると考えます。また、ナチ党の思想下による国民の影響について「良心は葛藤を避けるために自律を放棄して他律に陥り、それが当時のドイツではヒトラー崇拜という形をとった」と述べています。

このことは、今の時代にも言えることではないでしょうか。キリスト教国といわれるヨーロッパやロシアの度重なる空爆で、人間の命まで粗末にされています。軍需産業に投資する資本家たちのために武器のセールスマン化する政府。経済さえよければ現状で良しという国民。政府は沖縄辺野古基地新移設に反対する人々の声に耳を貸さず、核のゴミ処理問題未決の中で、次々と原発の再稼働に走っています。今、ヒトラーのような独裁者が現れる条件が整いつつあるようです。しかし、主は言われます。「国々の争いを裁き、多くの民を戒められる。彼らは剣を打ち直して鋤とし、槍を打ち直して鎌とする。国は国に向かって剣を上げず、もはや戦うことを学ばない。ヤコブの家よ、主の光の中を歩もう」(イザヤ書2:4~5)。

2016年1月に、85歳の田上中さんという方の「ゼッケン背にひとりデモする あの日から」という俳句が、東京新聞に掲載されていました。私も声を挙げて歩む気持ちを持ち続けたいと思っています。

## 「ボンヘッファーの平和講演」

ファネー会議でボンヘッファーは、戦争の危機が迫っていることを敏感に感じながら、《教会と諸民族世界》というテーマで講演を行い、こう述べています。「平和はどのようにして実現するのでしょうか？ 政治的な諸条約を結ぶことによってでしょうか？ いろいろな国に国際的な投資をすることによって、つまり、大銀行やお金によってでしょうか？ あるいは、平和を確実にするためのさまざまな軍備を拡張することによってでしょうか？ いいえ。これらすべてをもってしても、平和は実現しません。その理由は、そこでは〈平和〉と〈安全保障〉が取り違えられているからです。安全保障という道によっては決して平和に到達できない。……安全保障を追求するということは、[相手に対して] 不信の念を持つことを意味するからです。そして、この不信が戦争を生み出すのです」。彼はさらにこう言います。「こういうことは、一人ひとりのクリスチャンにはなかなかできないことです。個々の教会にもできません。ただ、全世界のキリスト教会が心を一にして初めて声を上げることができるのです」。こうしてボンヘッファーは「平和のための公会議」を心から望み、それを提唱したのです。

## 【良書紹介】

『昭和天皇は戦争を選んだ！』 増田都子著 社会批評社 (2015年6月15日発行・2200円+税)

川越 弘 (沖縄伝道所牧師・靖国神社問題特別委員会委員)

著者は、育鵬社教科書に記載されている「国民と共に歩んだ昭和天皇」像こそ、日本の国家組織が総力をあげて国民に昭和天皇美化を洗脳する基本的キャッチコピーであり、敗戦直後から現在まで延々 70年に亘って、なお必要にマスメディアによって繰り返し流れ続けている (13頁) と言う。そして、この昭和天皇についての記述が「フィクション＝作り話」である証拠を、当時、リアルタイムで記録されていた天皇側近・親族の日記・軍人の記録等の一級資料から実証した。

「育鵬社社会教科書の昭和天皇記述頁を見てみよう」(15頁)では、昭和天皇は「平和主義者」で、死ぬまで生涯、常に「国民の幸せ」を思って行動した人物であり、戦争になったのは天皇のせいではない。「自分はどうなってもいい」と言って降伏し、マッカーサーに直訴して国民を救おうとした崇高な人物である、と中学生に教えている (17頁)。

しかし実際はどうだったのか。東条らが慎重に英米戦を再検討して対英米戦をするしかないという結論を出し、天皇は納得して自分の意志で選んだのである。大日本帝国憲法第五十五条は「國務各大臣ハ天皇ヲ輔弼(補佐)シ其ノ責ニ任ス」となっている。國務大臣は主権者である天皇が決定したことを補佐するのが任務である。「補佐する大臣が決定し、天皇は追認した」と当時主張すれば、「非国民」として命の保証はなかった (75, 76頁) であろう。

終戦は、ソ連が参戦するやいなや天皇は即座に降伏の決断をした。1945年8月14日の第4回最高戦争指導会議で、ソ連に占領されるような事態になれば、「国体＝天皇制」もなくなるから、ソ連よりもましな米英への降伏を決断したのであった (114～116頁)。

8月15日正午、天皇の「玉音放送」が流れた。天皇とその側近は、皇室批判を免れようとして、ラジオアナウンサーに「朕は国土が焦土化することを思えば、たとえ朕の一身はいかにあろうとも、これ以上国民が戦火に倒れるのを見るのは忍びない」と解説させた。「昭和天皇は、身を投げ出して国民を救った偉大なる天皇である。国民は慚愧の涙を絞り、深謝するのみでなければならぬ。国民こそが一億総懺悔すべきだ」と、政府が宣伝させたのである (116, 117頁)。

東京裁判は天皇の免罪が大きなテーマであった。天皇はマッカーサーに「対米宣戦布告前に真珠湾攻撃を開始するつもりはなかったが、東条が自分を欺いた」と述べた (130頁)。しかし東

京裁判の席上で東条英機は、「日本国の臣民が天皇のご意思に反して、かれこれするということはあり得ぬ」と証言した（185 頁）。天皇は東京裁判において免罪されたことに、心からの感謝の意をマッカーサーに伝えた（220 頁）のであった。

1947 年 5 月 3 日、日本国憲法が制定され、天皇は国政に関する権能を持たない「象徴」となったが、天皇には日本国憲法を守る意志がなく、帝国憲法時代の統治権の総覧者意識で行動していた（192 頁）。1947 年 9 月、天皇は「沖縄の売り渡しメッセージ」を米国に送った。1951 年 8 月 9 日、天皇は吉田茂首相に命令して、サンフランシスコ講和条約と日米安保条約を締結させた。これはアメリカの要望する「日本のどこであれ、必要と思われる期間、必要と思われるだけの軍隊を置く権利」を与えた恥辱的な不平等条約であった（223 頁）。こうして天皇は、天皇制を守るために、日本国憲法を蹂躪してアメリカに主権を売り渡し、隷属化させる安保条約を推進した（254 頁）。現在も日本の領土・領海・領空を治外法権としてアメリカが支配している。とくに沖縄に 73.8%の米軍基地を置き、在沖米軍はベトナム戦争、湾岸戦争、アフガニスタン戦争、イラク戦争に出撃し、多くのアジアの人々を殺傷してきた。沖縄の人びとは戦争加担者となった痛みを持ちつつ、基地の事件・事故被害によって、日常的に人権侵害を受けている。

## [集会報告]

### \* 北海道中会の活動報告

第 33 回 北海道宗教者懇談会…政教分離や思想・信教の自由、天皇制に関する問題を考える集い…

日 時：2016 年 3 月 7 日（月）午後 1 時 30 分 会 場：北海道東本願寺会館

演 題：「構造的沖縄差別がまかり通っているのでしょうか」

講 師：講師 知花一昌（東本願寺沖縄別院宗徒、読谷村平和実行委員会） 参加者 60 名

幹事団体 日本キリスト教会北海道中会・日本基督教団北海道教区・浄土真宗本願寺派北海道教区・真宗大谷派北海道教区

### \* 4 月の国会周辺の「平和を求める戦争反対」関連集会

4 月 12 日（火）午後 2 時参議院会館 101 会議室「戦争法廃止を求める集会」

主催：平和をつくり出す宗教者の会

4 月 19 日（火）午後 6 時 30 分 国会包囲集会（衆議院会館前集合） 主催：諸団体の連合

4 月 25 日（月）午後 6 時～7 時「普天間基地ゲート前でゴスペルを歌う会」につながつて、官邸前でゴスペルを歌う会 呼びかけ：平和を実現するキリスト者ネット

## [2016 年度 各中会ヤスクニ問題委員会委員名簿]

■北海道中会「ヤスクニ・社会問題委員会」 古賀清敬（委員長）、稲生義裕（書記）、鎌田誠一（会計・札幌白石）、渡辺輝夫、紺野喜美恵（遠浅）、稲岡尚（札幌桑園） ■東京中会「靖国神社問題特別委員会」 木村治男（委員長）、斎藤修（書記）、上山修平、黒澤淳雄（会計・横浜長老） ■近畿中会「教会と国家に関する委員会」 井上豊（委員長）、鎌田雅丈（書記）、堀江法夫（会計・大垣教会）、澤田磐雄（西宮中央教会） ■九州中会「ヤスクニ問題特別委員会」 島田善次（委員長）、川越弘（書記）、一之瀬徳積（会計・柳川教会）、南茂昭夫（人権担当委員）

## [連絡]

\*大会靖国委員会は、4 月 29 日を「戦争責任を覚える日」と位置づけており、今回は「昭和天皇は戦争を選んだ！」の一部を紹介しました。この書物から歴史的事実が見えてきます。

\*大会靖国委員会は、今年も沖縄で委員会を開催し、そこで「メンソーレ、沖縄に来てみませんか」の参加者を募ります。基地反対抗議行動に、ご一緒に参加しませんか。6 月 27 日（月）～30 日（木）です。詳しくは委員まで。（編集部）

735号ヤスクニ通信 2016年4月10日  
発行 日本キリスト教会  
靖国神社問題特別委員会  
発行人 栗田英昭 編集 川越弘  
印刷発行 篠塚予奈（東京告白教会）  
〒157-0061 東京都世田谷区北烏山  
1-51-12 TEL&FAX03-3300-6529

